

ら しん ばん

# 羅針盤

進路だより  
令和3年7月21日  
第2号  
文責 中 根

## 夏休み間近、進路のことにも忘れずに

休校、分散登校とせわしく過ぎた前期の日程ですが、間もなく夏休みに入る時期までさしかかりました。今年もコロナの影響によって通常通りの日課や学校行事を進めることができず、歯がゆい思いをしている生徒も多いことでしょう。改めてこの夏休みの期間を利用して、心と体をリフレッシュさせてほしいと思います。それと併せて、つぎのステップに向けての準備もしっかり行ってください。夏休み期間は進路についての様々なイベントが行われる時期でもあります。とくに、大学・短大・専門学校ではオープンキャンパスが実施されます。自分が興味を持っている学校の実施日を事前にしっかりチェックしてこの期間に是非足を運んでみてください。今年の前半は進学先のオープンキャンパスもリモートによる実施が多く、実際に足を運んで見るようなものが少なかったようです。「百聞は一見にしかず」という言葉もあるとおり、しっかりと体験して学校の善し悪しを自分の目で確かめるようにしていきましょう。

### 就職志望求人票が公開。改めて推薦の意義を考えよう。

7月1日から求人票が公開されました。コロナ禍の影響で求人票の数がどのようになるのか、進路指導部では大変心配していましたが、実際に始まってみると、昨年よりもむしろ求人数は多く出ています。まずは一安心といったところですが、しかし、求人の内容をよく吟味してみると、一部で販売職などの求人が出ていないところがあるなど、多少の影響も見られています。それともう一つ、**今年度は石狩翔陽高校指定の求人（指定校求人）が多く来ています。この求人は企業側が「石狩翔陽高校の生徒を採用したい」と直接依頼してきた求人です。進路指導部としても是非いい生徒を送り出したいと考えています。**

ただ、こういった指定校求人について、生徒諸君に今一度考えてほしいことがあります。なぜこのように石狩翔陽高にだけ特別な求人や指定校枠を出してくれているのか。

それは、**石狩翔陽高校を卒業した先輩たちが各進路先で一生懸命に頑張り、会社・大学・専門学校から厚い信頼を得ているからに他なりません。求人票を持参してくる企業・大学等の方々は口を揃えていいです。「石狩翔陽高校から入社・入学した〇〇さんがすごく活躍してくれています。是非来年も同じように頑張ってくれる生徒をください！」**対応している私たちとしては本当に嬉しい言葉です。

このことについて、生徒諸君に知ってほしいことがあります。**就職であれ進学であれ、推薦と名のつく進路選択は卒業後の進路先での行動と振る舞いに責任が伴います。そして、その評価は後輩に影響します。**諸君が推薦によって決定した進路先で先輩達と同様に頑張る姿を見せ、**活躍する姿が認められれば推薦枠が増えて後輩に多くのチャンスが与えられます。一方でその反対もあります。推薦枠が減らされたり、無くなったりします。**

改めて推薦による進路決定の意義を見つめ直し、それに恥ずかしくない人物であるように努めてほしいと思います。

# 卒業生 合格体験記

札幌市立大学 看護学部 看護学科 18期生 永峰 旭 さん

私は、公募推薦で札幌市立大学看護学部合格しました。幼い頃に、父と祖父母を亡くしたことをきっかけに看護師になりたいと高校入学前から考えていました。そのため、**1年生の頃から放課後の進学講習や、長期休業中は学校と看予備の講習を必ず受講し、定期考査や模擬試験で良い点数をとるため、沢山勉強をしました。**私の目指す理想の看護師は、祖父がICUで治療を受けていたときに見た看護師のような、患者さんの細かい変化に気づき、迅速且つ正確に対応できる看護師です。2年生までは看護系専門学校への進学を考えていたのですが、3年生になり、大学の利点に気づきました。大学で学んだほうがICUで働くことを考えたときに、より高度な看護学を学ぶことができる。また、大学院という選択もあるということ。 ～ 中 略 ～

**勉強面では講習や勉強を通じて、同じ進路の仲間を見つけて、一緒に切磋琢磨することは大切なことだと思いました。同じ進路の仲間と励まし合い、落ち込む気持ちを奮い立たせ、乗り越えることができました。**看護は推薦・一般とも難しい道ですが、「継続は力なり」という言葉通り、努力は必ず報われます。自分を信じて頑張ってください。陰ながら応援しております。

道内の難関大学を目指した取り組みや推薦試験に臨むための事前の準備などは「進路ガイダンス 2021」の15ページに掲載されています。全文を読みたい人はぜひ読んでみてください。

## 進路学習室の朝自習、目標とする進路にむけて

朝7時30分。筆者が出勤して進路室に入室する時間である。すでに進路学習室の鍵は開けられていて、1～2名の生徒がすでにプリントを手にして黙々と勉強している。「おはよう。」と声をかけると、まばらではあるが「おはようございます。」と答えてくれる。その後、徐々に人数は増え、8時を過ぎる頃には空いた席を探すのが難しいほどになる。

4月当初は学習室に来るメンバーは決まって3年生6～7人だったが、6月の進路ガイダンスを境に1・2年生の姿も見られるようになった。今では10人を超えて席が足りないような状況だ。

生徒の進路目標も様々だ。元々は現1学年主任の久米先生が2年前から、この3月に卒業した公務員志望の生徒を対象に、始めたのがきっかけだが、現在来ている生徒の進路希望は公務員に限らず大学・医療系専門・看護と多岐にわたっている。

自分の進路と真摯に向き合い、合格に向けて必死に取り組む姿勢は大切だ。努力は決して無駄にならない。笑顔で結果を迎えられる日が来ることを願ってやまない。

